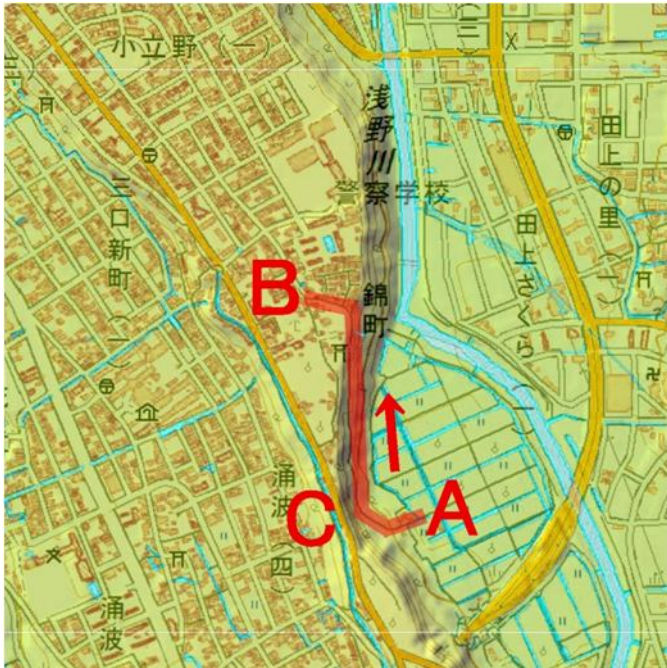


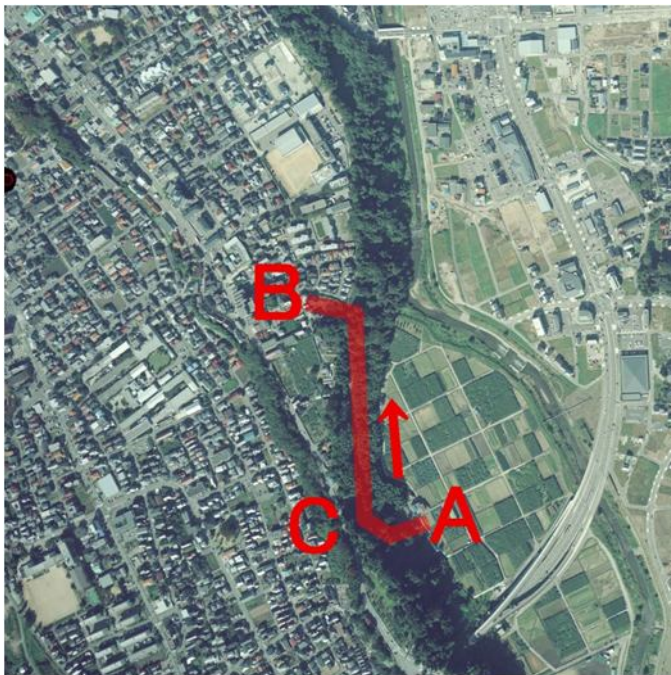
「金沢の地形(7) 浅野川の段丘崖を上る①」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

金沢南東部の色別標高図を見ると、犀川によって形成された段丘崖よりも、浅野川が形成した段丘崖のほうが高い(立派な)ように見える。具体的には、浅野川沖積地と小立野段丘の境にある段丘崖である。



たとえば、この地点の段丘崖を色別標高図で見てもよい。浅野川の西側に、顕著な段丘崖が見られる。



(国土地理院提供)

(上)は、地図と同じ範囲の航空写真である。どこの段丘崖も、木々で覆われていることが多い。傾斜が

急すぎて、人工物の建造が難しいからだ。航空写真の読図で段丘崖を探すには、「細長い木々の列」と「その近くに平行に流れる川」か、決め手となる。



(上写真)は、地図の一番上にある、浅野川を渡る橋(下田上橋)である。平常時の浅野川の流は、以外にも細いが、右側の段丘崖は非常に「立派」である。この崖を直登する道は、さすがに1本も見当たらない。

(私が子どもだったら、たぶん川から登って遊ぶ。)地図で見ても、斜めに上る(地図の北端)か、崖に付き合いきれずトンネルで突破(地図の南端)している。

実は、図のA地点からB地点に向かう小道がある。幅員狭小なので、地形図には太線1本で表現されているので、気づきにくい。A地点の標高は45.6m、C地点の標高は88.7mで、比高は実に43.1mもある。



写真はA地点から、段丘崖を見たところだ。この道は、段丘崖を削って法面を造っているのだから、A→Bの道を歩けば、地層の露頭が期待できそうだ。(つづく)